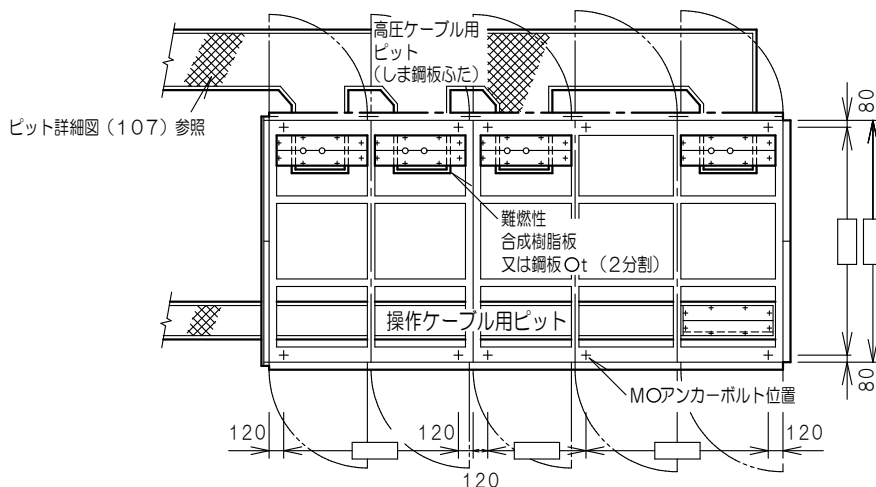


受変電設備

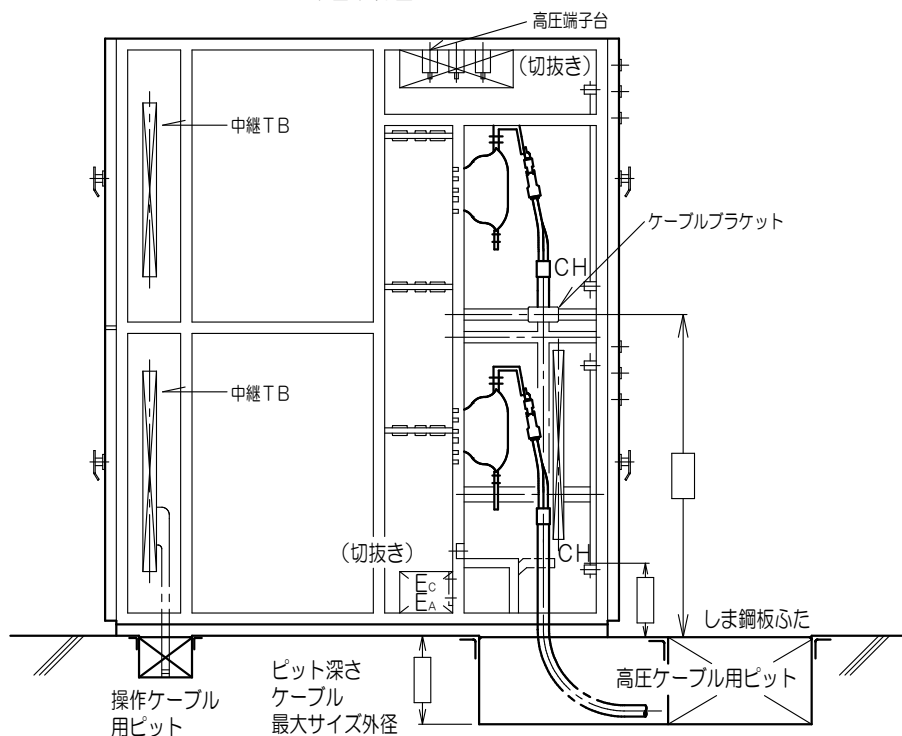
101

屋内キュービクル配線

(単位 mm)



平面取付図



ケーブルの種類	単心以外	単心
低圧ケーブル	仕上り外径の6倍以上	仕上り外径の8倍以上
低圧遮へい付ケーブル	仕上り外径の8倍以上	仕上り外径の10倍以上
高圧ケーブル		

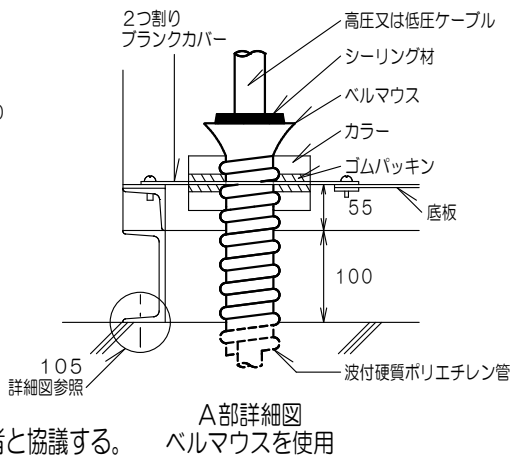
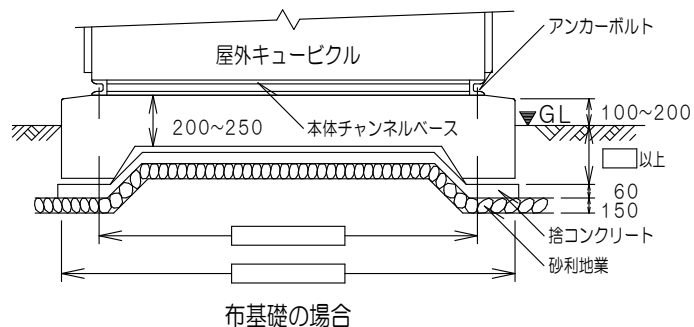
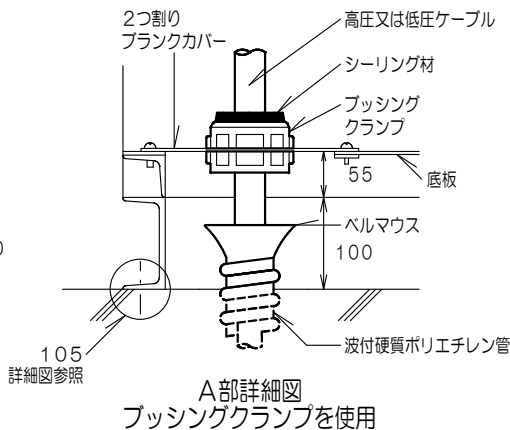
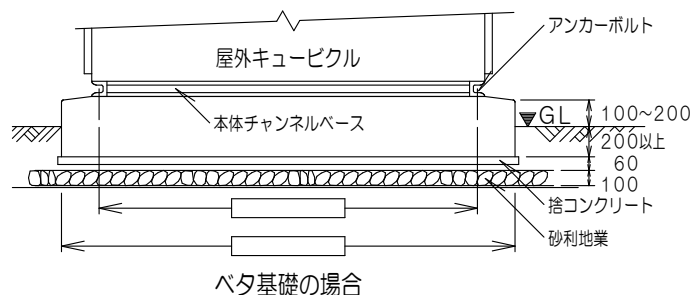
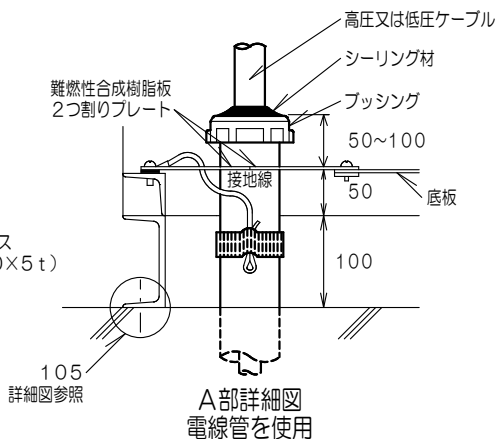
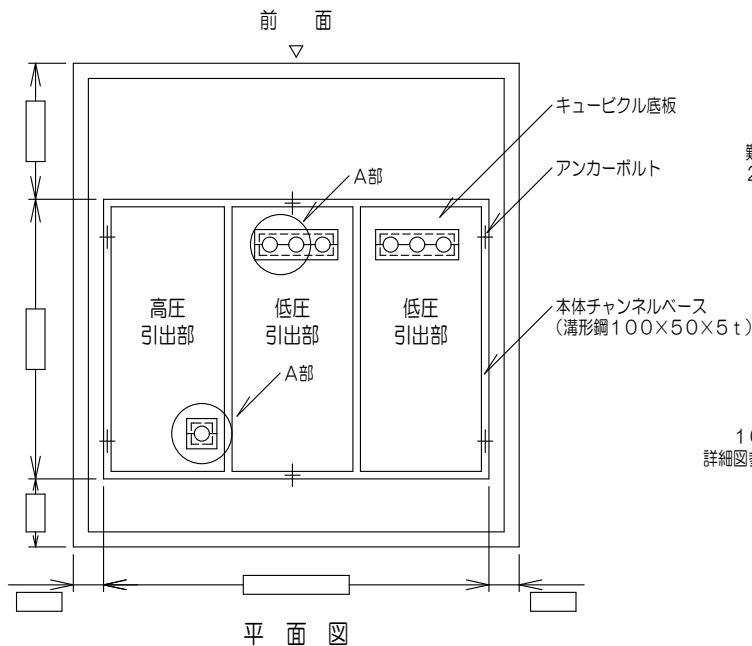
備考 (1) 単心2個より、単心3個より及び4個よりのより線における仕上り外径は、より合せ外径をいう。
 (2) 低圧ケーブルには、低圧の耐火ケーブル及び耐熱ケーブルを含む。

盤内ケーブル立上図

注意事項

1. アンカーボルトの種類、径、打設本数等は、設計者の耐震条件をもとに耐震計算書を作成し選定する。
2. アンカーボルトの種類、径、深さ等を記入する。
3. ケーブル立上り箇所は、分割型底板をケーブルサイズに切込み、通線後シーリング材等を充填する。
4. 記入寸法は、一例を示す。

(単位 mm)



注意事項

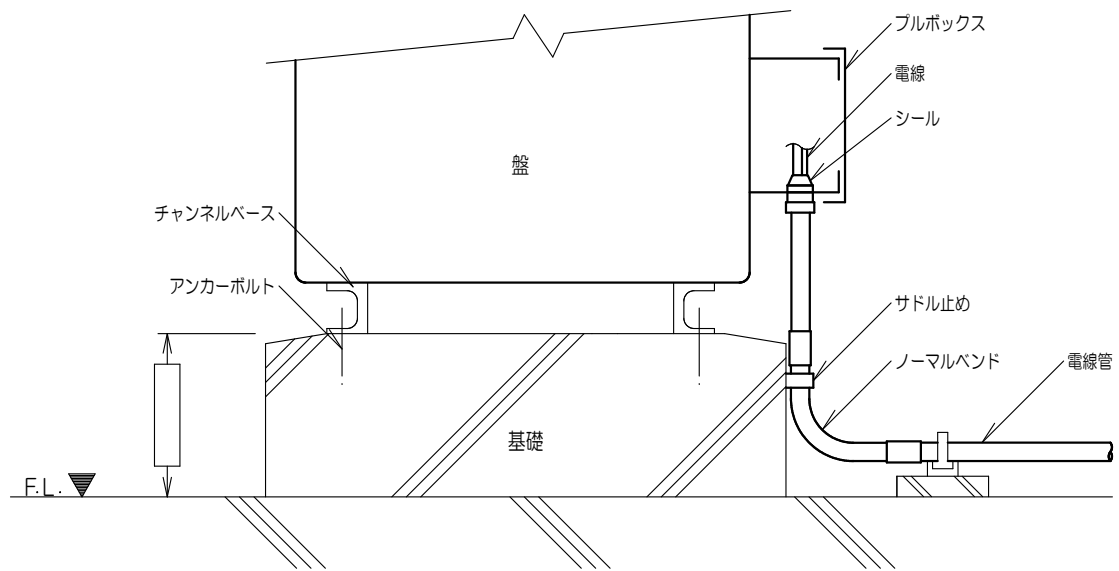
1. 軟弱地盤 (地耐力 $\square t/m^2$ 以下) 及び盛土の場合は、建築担当者との協議する。
2. 基礎の上面に水溜りができないように勾配をとる。
3. 基礎の埋設深さは \square 以上とし、寒冷地の場合は凍結深度より深くする。
4. 鉄筋の種類、ピッチ等は、建築担当者との協議する。
5. キュービクル内に雨水の吹上げ及び虫・小動物の侵入を防止するため、底板を設ける。
6. 雨による土のはね返りの防止及び雑草の生育を抑えるため、基礎の周囲は砂利を敷くことが望ましい。
7. 記入寸法は、一例を示す。

盤

類

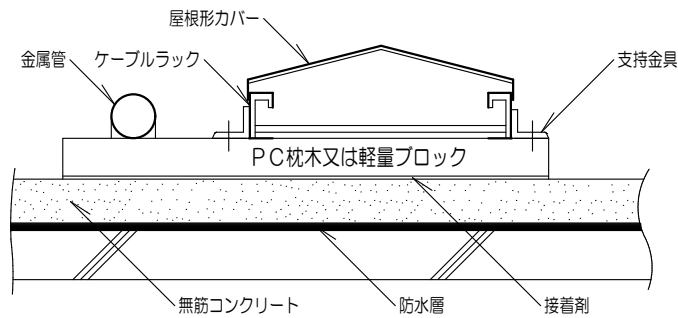
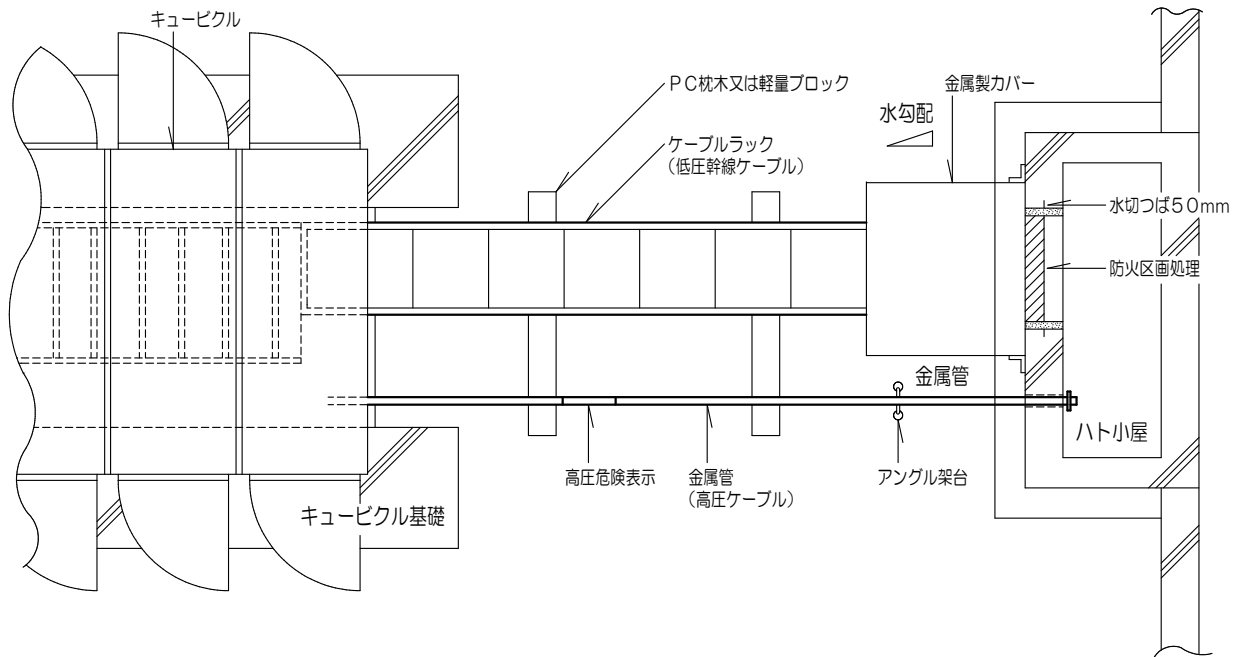
402

自立盤 - (2)
(電線管立上げの場合)



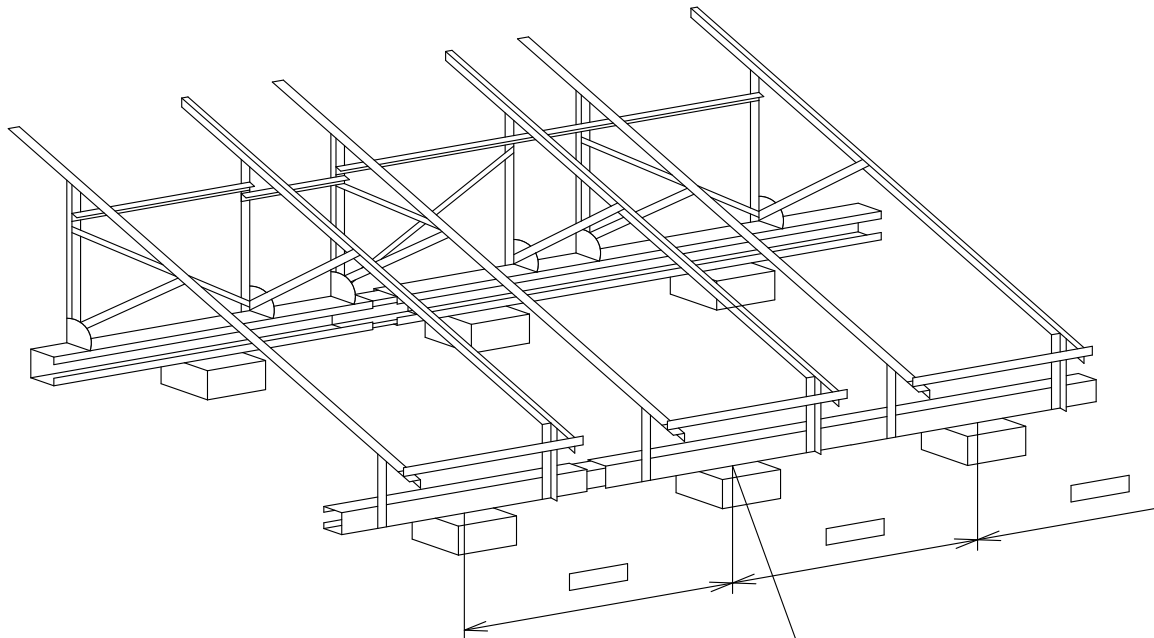
注意事項

1. 基礎の高さは、埋込及び箱抜きアンカーの必要埋込深さを考慮する。
2. スラブの強度確認のため、盤及び基礎の質量、位置を明示し、構造担当者の承認を得る。



注意事項

1. ケーブルラックの基礎は、PC枕木又は軽量ブロックと溶融亜鉛めっき仕上げの山形鋼とする。
屋上仕上げが露出防水の場合は、ゴムシートを設ける。
2. 高圧ケーブルと低圧ケーブルは別にする。
3. キュービクル下部の防鳥ネット及び点検用踏み台等については、105図「屋上設置キュービクルの基礎」を参照する。



ライナー SUS製

アンカーボルト M12

注意事項

1. 架台は、アンカーボルトで基礎に堅固に据付ける。
2. ベース材と基礎との間に高さ調整用のライナー（SUS製）等を使用し、水平に固定する。
3. 架台は、C種接地（開放電圧が300Vを超える場合）又はD種接地（開放電圧が300V以下の場合）のアースをとる。
4. 架台の部材は、積雪荷重や風圧力に耐えるものを選定する。
5. 設置方法・間隔は、「太陽光発電設備に係る防火安全対策の指導基準」（東京消防庁）等を参照する。